

去る7月17日(日)13:00から鳳陽館会議室(山口市亀山町)にて開催した2005年度総会において下記議案が承認された。

- 【報告事項】 1、2004年度事業報告。 2、2005年度収支計算報告。
 【決議事項】 第1号議案 2005年度事業計画。 第2号議案 2005年度収支予算。
 第3号議案として、昨年の訪問時に次のような「中国からの新しい提案」がありましたのでその受諾の可否を審議した。

平成16年11月1日に山東省甲州氏洋河鎮(旧董城村)を訪問して、洋河鎮委員会の劉金升書記と共に、洋河鎮の孫殿倫鎮長、周瑞雪教育委員会主任、学校長その他教育関係の方々との会談の最後に、今後のお願いとして2点の希望意見が出された。

①洋河鎮にはもう一つの初等中等学校があり、その子供達の中にも貧しいために学校に行けない者がいます。その初等中等学校の子供達も支援して貰えないだろうか?

②子供達に交換留学の機会を与えて貰えないだろうか?

この2点の要請については、現状の会員数での長期に亘る「資金の確保」と、「日本の子どもたちが義務教育期間中に交換留学のために休学することが可能かどうか」と言う問題が解決出来ないため、お断りすることで承認された。早速文書で回答することとした。

以上で、議案の審議を終り、最後に9月にヴェトナムの「ダナン・ストリートチルドレン・センター」を、学生とともに訪問、視察する計画を報告した。(事務局)

【年会費の納入、有難うございました】 (五十音順、敬称略:2005年5月15日~2005年10月10日)

浅野 敏、安部 一成、荒瀬 剛一、有村 貞則、石井 雅憲、石井 由里、市川 祐子、内田 浩一郎、永梅、江河 知寿、恵谷 俊次、袁 麗暉、大島 脩、大隈 博志、大村 伸子、小田 知子、開作 真人、片岡 和子、河村 節子、河本 幸枝、木原 寛、草場 英昭、久保園 浩、小島 良和、児玉 洋子、佐伯 謙吾、酒田 加代子、嶋田 春美、清水 力、末永 汎本、戴 利明、高田 きよこ、高畑 鷹恵、瀧口 治、竹内 せち子、田代 寿美子、田島 幸男、田淵 太一、近本 慶子、寺田 真里、徳重 忠治、中村 達志、永井(旧姓・秋枝) 真己子、長橋 和男、長安 初美、名畑 恒、西村 晃、西村 節子、幡本 啓子、原 英崇、原口 智美、平田 京子、平松 洋之介、広中 平祐、平野 充好、福岡 善平、福田 晴彦、福田 真理子、福田 祐紀、藤田 明伸、分木 久子、前田 晃生、曲田 靖、松浦 キクヨ、松浦 澄子、松尾 仁恵、溝部 法雄、宮川 英之、三宅 洋一、村中 隆美、元永 真由美、守屋 爽子、森山 信治、安原 勝美、柳屋 武夫、山野 勝也、尹 春志。

【ご寄附、有難うございました】 (五十音順、敬称略:2005年5月15日~2005年10月10日)

長安 初美(未使用及び書損じハガキ:●●●枚)、松浦 キクヨ(6,000円)。

編集後記【事務局から】
 ◆9月20日から1週間、ヴェトナムの「ダナン・ストリートチルドレンセンター」を訪問してきました。学生5名の参加で、子供たちとの交流では言葉が通じないのに賑やかなひと時を過ごすことが出来ました。今号はその報告です。
 ◆グエン・ランさんも元気な姿を見せ、交流会が終わってから子供たちと一緒に暮らしている収容施設の1室まで彼自ら バイクでそこに案内して貰いました。
 ◆ダナンの街は2年前とは大きく変わっていた。ヴェトナムの経済水準の向上を実感できた。子供たちの家庭環境も良くなっているのだろうか?市街地の家庭は住居の確保に苦労しているようだが、田舎の家庭では、家の大きさは変わっていない ようだが、きちんと補修されて電化製品が置いてあった。

【アジアの子・第11号】

編集:熊田 薫、袁 麗暉、山野 勝也。
 写真:大石 亜矢子、安田 奈穂
 森谷源太、渡司 紗裕美、西村 晃
 森山 信治。

<連絡先>

アジアの子教育基金山口大学事務局
 〒753-0089 山口市亀山町3-1鳳陽館内
 tel/fax: 083-924-4361(呼)
 e-mail: asianoko@hotmail.com
 URL: http://asianoko.econo.yamaguchi-u.ac.jp



ベトナムスタディーツアー報告



「アジアの子教育基金・山口大学」の設立以来3回目となるベトナムスタディーツアーに、9月20日~27日の日程で行ってきた。今回のベトナムスタディーツアーの目的は、私たちが支援している「ダナン・チルドレンセンター」の子ども達に会うこと、さらに里子達の成長振りを見てくることであった。今回のベトナムスタディーツアーには社会人3人(山野勝也・西村晃・森山信治)と山口大学経済学部の学生5人(大石亜矢子・安田奈穂・渡司紗裕美・森谷源太・熊田薫)の計8名が参加した。

21日に「ダナン・ストリート・チルドレンセンター」の代表者(シ・マンさん)からベトナムの教育についての現状、これまでの活動の成果を説明してもらった。さらに、私たち「アジアの子教育基金」の支援に対する感謝の言葉をいただき、胸の熱くなる思いがした。その後、職業訓練校を見学させていただいた。現在のベトナム政府は貧困家庭をなくすための政策に重点を置いており、2010年には貧困家庭を100%なくすことを目指しているとのことであった。また、2003年からスイスのNGOもベトナムに支援を行っており、国際社会の支援とベトナム政府の努力によって今後の貧困削減が期待される。私たちもその一端を担っている。

「ダナン・ストリート・チルドレンホーム」では、ホームのお母さん達と共に付近の市場まで買い物に出かけた後、子ども達と共に現地の料理を作った。子ども達とは片言の英語でしかコミュニケーションがとれなかったが、子ども達の純粋な目と人懐っこさが私たちの緊張をほぐしてくれた。子ども達は皆たくましく、元気で、生き生きとしていた。彼等の生活環境はまだまだ衛生的に安全であるとはいえ、やはり私たちの暮らしとは程遠いものであった。しかし、彼等の中には生きる強さが在った。日本において日常に追われる私たちの忘れかけた大切な何か、そこには在った。私たちは今回彼らから多くのことを学ぶ事が出来た。

今回のベトナムスタディーツアーでは、以前山口大学の院生であったクイさんとクックさんに現地の案内をしていただいた。仕事の合間をぬって私たちのためにお世話をしてくれた。この場を借りて、改めて

~目次~

| | |
|------------------------------|--------|
| ベトナムスタディーツアーの報告 | 1 PAGE |
| グエン・ランさんとの再会 | 2 PAGE |
| ベトナム旅行記 | 3 PAGE |
| 2005年度総会報告 年会費の納入 編集後記 | 4 PAGE |



里子と2年ぶりに再会する西村さん(右上)
 同じく山野さんも念願の再会(右下)
 森山さんは新しく受け持つ事になった里子と初対面!!(左)

再びグエン・ランさんと会えました

グエン・ランさんが「軽い脳梗塞で、体が不自由になった」との情報を聞いたのは、我々が2003年秋にダナンを訪問した後、暫らくしてからだった。どのような状態なのか、明確に判らないまま、今回、ヴェトナムを訪問することになった。9月21日午前、「ダナン・ストリートチルドレンセンター」での表敬、交歓、視察、それから里子訪問と慌ただしく予定を消化した。この後、子供たちとの会食準備の料理と、子供たちとの言葉の通じない相手をするに紛れて、「グエン・ランさん」の消息について尋ねることに思い当たらずに済んでしまった。夜、会食の前に突然グエン・ランさんが現れました。なんと、元気そのもので、かなり痩せている以外はどこにも病気を窺わせるような点は見えなかった。以下、グエン・フー・クイさんの通訳で話を聞く。脳梗塞で倒れてからは、自分は意識不明だったので何も判っていない。唯、病院に救急車で運び込まれて、検査されたが、その病院では手術出来ないとのことであった。また、ハノイの病院まで運ばれて検査されたが、やはり手術不可能と言う診断であった。しかたなく、有効な手術、治療を受けることなく、そのままダナンに連れて帰って貰った。

なすすべもなく2週間が過ぎたある日、突然、手や足が動かせるように。徐々に意識も回復し、話が出来るようになった。医師も周囲もびっくりしていて、自分も、まったく奇跡だと思っている。

以来、自分の部屋に仏像を置き、毎日、線香をともし、手を合わせて感謝のお祈りをしている。彼は子供たちの収容施設のひとつに部屋を貰って暮らしている。この施設で、我々が学生諸君と2001年に訪問した時に、竹とんぼを作ったり、カレーライスで子供たちと会食したことを思い出した。

「現在、自分ではどこにも異常はないと思っているので、日常の仕事につきたいのだが、なかなか思うに任せなく残念だ」と。宵闇の中を、新しいバイクに乗って我々を先導してくれた姿が印象に残った。(Y)



グエン・ランさんと一緒に☆

♪ベトナムスタディーツアーで感じたこと



ベトナム訪問

今回のベトナム訪問へ同行させていただくことがきっかけで、アジアの子教育基金の存在を知りました。まだ小さな団体ですが、アジアの子教育基金の担っている役割は大きなものだと思います。

訪問した職業訓練センターではセンターの活動をはじめ、ベトナムの貧困の現状なども詳しく知ることができました。また、里子のホームでは、子供たちやホームのお母さん、地域のボランティアの方々と一緒に市場へ買い物に行き、食事の準備をしました。ベトナムの人の生活を自分の目で見ることができ、貴重な経験でした。ホームの子供たちはとても人なつこく、笑顔が輝いていました。別れの際には泣き出す子供もいて、その純情さに、今日の日本の子供に薄れてきたものを感じました。

ベトナムは、社会主義を掲げていますが、貧富の差が生じています。しかし、都市部の発展は目覚しく、数十年後にはベトナムでのアジアの子教育基金の活動も無くなるのではないかと思います。アジアの子教育基金の存在をもっと沢山のの人に知ってもらい、ベトナムをはじめもっと沢山の国への援助が出来ようになればよいと考えています。今回のベトナム訪問は私にとってとても貴重な体験となりました。その際には沢山の皆様のお世話になり、感謝の意を表したいと思います。

山口大学 経済学部 経営学科・商業教員養成課程 2年 大石亜矢子



私がベトナムで学んだ事は、人の温かみです。海外に行くと、自ずと心がオープンになります。私は旅行に行くならば沢山のひとと接したいと思い、積極的に出会いを求めました。ベトナムの方やそこに住む諸外国の人は、そんな私に温かく応えてくれたので、とても嬉しかったです。これが日本ならばと考えたとき、日本人はこれほど優しく接してくれるのだろうかという疑問に思いました。また、この旅行の主旨である子ども達とのふれ合いの中で、経済格差と、生きる事の大変さを考えさせられました。ベトナム戦争を知ることでは、戦争を知らない私たちにとって、あらためて戦争の悲惨さ、残酷さ、を突きつけられました。貴重な体験をさせていただくことができました。有難うございました。

山口大学経済学部国際経済学科2年 安田 奈穂

私は旅行が好きです。旅行は固定化されつつある価値観や考え方を直視させてくれ世界を広げます。今回の旅行は普段の生活では得ることのできない気持ちや考えを見つけ、そこから自分を見つめ直すことが出来ました。ダナンで訪れた子供たちの笑顔や優しさは普段私たちが忘れがちな感情を取り戻させてくれました。私にとって一回りも二回りも成長できた体験だったことは言うまでもないと思います。

山口大学経済学部2年 渡司 紗裕美



アジアの子教育基金活動報告～ベトナム・ダナン～

日本からベトナム最大の都市であるホーチミンまでは飛行機で4時間弱。さらにそこから国内線に乗り継いで約1時間のところに、私たち一行の目的地であるダナンがあります。到着したときには日が落ちていたせいか、飛行場の周辺はとて静かだったように感じました。その日は20分程行ったところにあるホテルに泊まり、明日に控える今回のメインイベントに備えました。

2日目、体調も良く朝ごはんも美味しく頂き早速行動開始です。まずは、車で15分程度のところにある、チルドレンセンターに見学に行きました。会議室でダナンの教育がどのような状態であるのかお話を伺いました。その後、センター内にある職業訓練所を見学させて頂きました。電気系統の物や、裁縫、刺繍等、卒業後にすぐに働くことのできる能力を身につけられるシステムの様です。この日は、あまり子供達がいまいませんでしたが、男の子が荷物を運んでいたり、女の子が庭掃除をしたりしていました。こちらから手を振ると微笑み返してくれました。

それが終わると、里子を訪問し、昼食をとり、子供達が住んでいるチルドレンホームを経て夕食の材料を仕入れに市場に向かいました。そこはとて活気があり、数え切れないほどの種類のものが売られていました。私たちが買い物をした肉屋とその隣の肉屋が客の取り合いで喧嘩をしていたのも印象的でした。

チルドレンホームに帰り、子供達と一緒に晩御飯の支度を始めました。日本勢の中にはニンニクの皮を剥けない人もいましたが、子供達はなれた手付きで作業をしていました。料理しているのはほとんどが女性でした。

料理の支度が出来た後、子供達と遊んだり話をしたりできました。英語を習うようで、中にはとても上手に喋れる子もいました。男の子は抱きかかえられたりするのが楽しらしく、私は延べ20人くらいの子を抱えたと思います。

夕食はさながらパーティーのようでした。あちこちで乾杯をする子供達がいる、日本ではなかなか味わうことの出来ない、独特の雰囲気でした。食べ物も美味しく、楽しい夕食でした。

今回の旅は、日本以外の国で、人権を蹂躪され教育を受けることのできない子供達について知る良いきっかけになったと思います。このような機会を与えて下さった、アジアの子基金の皆様、本当にありがとうございました。

ベトナムのチルドレンホームで沢山の子ども達と遊び、そして触れ合いました。顔と顔が見える関係を築く、それは援助のあり方の根本なのではないでしょうか。私は子ども達やホームの方々とは直接会うことで、日本では決して感じる事が出来ない喜びを感じました。お互いの住む世界は、決して所得や物質的豊かさで区別されるものではないと思います。子ども達と一緒に過ごした時間はあっという間でしたが、本当に貴重な体験を「する事が出来ました。お世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

山口大学経済学部国際経済学科4年(学生会員) 熊田 薫

